

科目名	専門演習Ⅲ Seminar III						
科目担当者	雨宮 敬博 AMAMIYA Takahiro						
単位数	4	配当年次	4年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習]					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	<p>専門演習Ⅲは、卒業論文の作成が中心となる。</p> <p>できあがった卒業論文を12月の最後のゼミの際にいったんゼミ内において提出し、添削が加えられたものを1月の最初のゼミの際に受領して各自加筆・修正したものを最終提出（その日時・提出先については掲示等で確認すること）することを前提としつつ、その具体的なスケジュールについてはゼミ生と協議しながら決定するので、「授業計画・内容」の欄に記されている予定は変更の可能性はある。</p>						
授業の到達目標	①専門演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容をふまえ、各ゼミ生の関心に沿ったテーマにつき卒業論文を作成し、提出する。						
授業計画・内容	1	年間計画策定、ゼミ長・幹事選出			16	卒業論文指導	
	2	卒業論文指導			17	卒業論文指導	
	3	卒業論文指導			18	卒業論文指導	
	4	卒業論文指導			19	卒業論文指導	
	5	卒業論文指導			20	卒業論文指導	
	6	卒業論文指導			21	卒業論文指導	
	7	卒業論文指導			22	卒業論文指導	
	8	卒業論文指導			23	卒業論文指導	
	9	卒業論文中間報告（1～2名）			24	卒業論文指導	
	10	卒業論文中間報告（1～2名）			25	卒業論文指導	
	11	卒業論文中間報告（1～2名）			26	卒業論文ゼミ内提出（12月の最後のゼミ）	
	12	卒業論文中間報告（1～2名）			27	卒業論文返却（1月の最初のゼミ）	
	13	卒業論文中間報告（1～2名）			28	卒業論文加筆・修正作業	
	14	卒業論文中間報告（1～2名）			29	卒業論文加筆・修正作業、掲示に従って提出	
	15	卒業論文中間報告（1～2名）			30	まとめ	
授業外学修 (事前学修)	卒業論文の作成自体を授業外学修として行う（毎週2時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	卒業論文の作成自体を授業外学修として行う（毎週2時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	完成した卒業論文の内容によって評価・単位認定する。少なくとも単位を取得するためには、論文の内容が論理的であるとともに刑事法上意義を有する内容が説得的に述べられていることを要する。				100%	①	
成績評価基準	<p>秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合</p> <p>なお、卒業論文の全部または一部に、インターネットからいわゆるコピーを行った記述が見られる場合は、その時点で直ちに「不可」となる（たとえ書き直したとしても単位取得は絶対に不可能）。</p>						
教科書	別途指示						
参考文献	別途指示						
その他							